

暗転

または悪意の後継

作・小佐部明広

【登場人物】

岡康介（おかこうすけ）……作家。
東ゆきえ（あずまゆきえ）……岡にからむ女。
池崎勉（いけさきつとむ）……岡のバイト仲間。
谷口オリエ（たにぐちおりえ）……作家。
波多野彰良（はたのあきよし）……岡の高校時代の同級生。
藤田実子（ふじたみこ）……岡の高校時代の同級生。

脚本上の「声」は、舞台横で待機している出演者の一人が語ったり、あるいは複数人で語ったり、一文字ずつ音を出したり、あるいは複数人で重なるように次々発話したり、コーラスをしたり、演出の範囲で効果的な表現を模索するとよい。

1

（1）精神的世界

音楽の中、作家である岡が、過去の思い出やイメージの中の人物と格闘しつつ、物語を構築しようとしている。うまくイメージできず、反復したり、かき消したり。何かにとりつかれたように、格闘している。あるとき、岡康介は、自分を投げるように一歩、踏み出そうとして、何度も試みて、落ちていくように、一歩前に身を投げる。

（2）繁華街の夜

クラクションの音が鳴っている。岡は道路に飛び出していた。クラクションは何度も鳴っていた。運転手は何か大声をあげていた。岡がよけると車は走り去っていったようだ。

声 新しい視点や価値が示せていない

テーマが扱いきれていない

技法に頼り過ぎている

この人物が死ぬ理由がわからない

死ぬ理由がわからない

酒に酔っている女・東ゆきえが岡の身体に絡む。

岡は東を振り払うが、東は何度も絡んでくる。

東 私と飲みましょう？

岡 すいません。

東 私と飲みましょう？

岡 すいません。

という言葉を何度も繰り返しながら、東は岡の身体に絡みつき、岡はそこから逃げようとする。それを何度も繰り返す。岡はだんだん消耗してくる。消耗している岡を、東が抱きしめる。

東 どうせ死なないクセに。

音楽の中、絡み合う二人の身体。先ほどとは違い、相手の身体や温度を感じながら、常に身体の一部を触れ合わせながら、丁寧に動いている。やがて、二人は座り込む。

東 ……またしようよ。今度はもっと安くていいからさ。

岡 ……。

東 ……あたしさ、うん、まだ病院行ってないからわかんないけどさ、たぶん……、

岡 ……。

東 ……誰のかわかんないけどね。

岡 こういうことはよく？

東 うん、好きだからね。あ、でもブサイクとはやんないよ。

岡、さらに金を渡そうとする。

東 なんて？

岡 ……。

東 元カノに似てるとか、やめてよ。

照明C. O.

(3) 居酒屋

声 ハッピーバースデー トウーユー

ハッピーバースデー トウーユー

ハッピーバースデー デイア フフフーン

照明F. I.

声 ハッピーバースデー トウーユー

拍手したりして誰かを祝する声など。

居酒屋のガヤガヤしている声たち。

岡と、岡の元バイト仲間の池崎が座っている。

誕生日の歌の途中から既に池崎は喋り始めている。

岡は誰かの誕生日を祝っている集団の方に気を取られていた。

池崎 俺知ってるしそいつつつつって、マジそういう調子こいたガリベン俺あれなんだわマジつつつって、まあでも勘違いみてえなさ、

でも俺知らなくて、そいつシメちって、まーやんちゃだったんだなってな、俺も。少年院いったやつはやんちゃじゃすまねえかって。岡っち、おい岡っち。

岡 ん？ きいてるよ。

池崎 ま、人生いろいろあるけどさ、やっぱ28っつーのは落ち着く歳だなって。あんときはバカだったなーって。

岡 よかったよかった。

池崎 守るべきものっつーのかな、そういうのができてさ。

岡 なに？ (小指たてて) これ？

池崎 70億分の1の出会いってやつ？

岡 マジかよ。

池崎 でなんかさ、お前の話したら、興味もったみたいで、今日来るっつって、

岡 えなんで？

池崎 彼女も、(ペンでなにか描く手ぶり) これだからさ。

岡 作家？

池崎 そうなんだよ、めっちゃ面白いんだよ。

岡 へー。

池崎の彼女、谷口がやってくる。

谷口 あーどうもー、

池崎 あーあの、

谷口 あ、谷口ですー。

完全に静止する。

数秒後、谷口は後ろ向きに歩いて去っていく。

池崎 そうなんだよ、めっちゃ面白いんだよ。

岡 へー。

谷口がやってくる。さっきよりかなり愛想がいい。

谷口 あーどうもー、

池崎 あーあの、

谷口 あ、谷口ですー。

谷口は後ろ向きに歩いて去っていく。

池崎 そうなんだよ、めっちゃ面白いんだよ。

岡 へー。

谷口がやってくる。さっきよりかなり愛想が悪い。

谷口 あーどうもー、

池崎 あーあの、

谷口 あ、谷口ですー。

完全に静止する。数秒。

谷口は手で顔を隠している。

池崎 あっはっは、そうじゃねえよ、(来店の挨拶) しゃっせいーだ

よ、

谷口 もう帰ろっか、

池崎 お、あーうん、

谷口 (お金を渡して) 払ってきて。

池崎 うす。(去る)

谷口 (岡に接近して) ねえ、岡くんの作品、今度見せてくれない。

岡 え、ああ、

谷口 (連絡先が書いていると思われる紙を岡のポケットに入れて) 頼んますっ。

照明 F. O.

池崎の声 谷口さん足りないっす！

谷口 (去りながら) ネコババしたの？

池崎の声 いやしてないっす。マジっす！

声 ほとんどの人間は中途半端な善人で 中途半端な悪人だから

(4) 繁華街の夜

クラクションの音が鳴っている。

照明 C. I.

岡は道路に飛び出していた。クラクションは何度も鳴っていた。運転手は

何か大声をあげていた。岡がよけると車は走り去っていったようだ。東が現れる。

東 飲むかい？

岡 あー。

照明、カットチェンジ。

岡と東は寝る。

携帯端末のバイブレーション。

東は眠っている。

岡 はい。

谷口の声 どうも谷口オリエです。

岡 ああ、

谷口の声 もらったやつ。発想とかアイディアとか、面白かったな
って。

岡 ええ、

谷口の声 この原稿、買ってでもいいかな。

東 あ、動いた。

岡、東の方を振り向く。

照明 C. O.

音楽。

(5) カラオケルーム

岡の歌声が聞こえる。

照明 F. I.

波多野 ふーっ！

岡 (歌い終わって座る)

波多野 あーもう疲れたな。休憩休憩。

岡 おう、

波多野 あれ俺何してるか言ったっけ、転職してさ、テレビマンだよ。結婚式るとき言ったか。かわいいんだ子供が。餅みたいでさ。

あ、そうだ、あいつ覚えてる？ 藤田。

岡 藤田？

波多野 フジモンだよ。

完全に静止する。数秒。

波多野 あははマジで！ よくわかんない女と住むなんてある？

岡 あるんだよ。

波多野 はー。これちよつと面白くなってきたな。今日はお願ひあつてさ。

岡 なに？

照明 C. O.

波多野の声 お前のこと撮らしてくんない？

(6) 岡の家

東の声 (優しく) 疲れてんの？

照明 C. I.

原稿を書くためのメモ書きをしながら眠っていた岡。

岡 ん、ああ。

東 コーラ飲む？

岡 ん？ んん。

東は谷口と入れ替わっている。

谷口 はい。(コーラを渡す)

岡 うん、え？

東の声 今回はどんなの？

岡 ああ、作家がね、過去の記憶とか、イメージとか、そういうものど格闘してね、断片的なね、んーと何言ってるんだ、悪意、うん、悪意悪意、俺は悪意を芸術にする。作品を発表した後、俺の罪を、

岡、意識が遠のく。

照明 C. O.

(7) 居酒屋

居酒屋のガヤガヤしている声たち。

声 だからお前レモンかける前に聞くだろふつう

いやそんなのだってかける前にかけないでって言うよ普通

岡と、池崎が座っている。

池崎の声 おい岡っち、岡っち、

照明 C. I.

岡 ん、ああ、

池崎 だいぶ飲んだな、

岡 あ？ ああそう、

池崎 もう帰るか？

岡 ああ、あれどうなんだよ。

池崎 なにあれって？

岡 セックスだよ。谷口さんとのセックスだよ。

池崎 えなに聞きたい？ 聞きたい？

岡 なあ谷口さんどうやって喘ぐんだよ。ん、何言ってるんだ違う違

う。

池崎 あの人ドSなんだよ。俺攻められっぱなしっつーか、やらしんだよ。俺ってばラッキー？ 谷口さんと知り合ってたさ。なんっつか生きる意味、っつーか。すげんだよ、今度映画化されるんだよ。

岡 知ってるよ。

池崎 そんなすごい人だって知らなかったから、すげえよ。

岡 なんてお前なんかと、あ、ううんごめん寝ぼけてるな。うん。

岡、意識が途切れる。

照明 C. O.

(8) 岡の家

東の声 (優しく) 疲れてんの？

照明 C. I.

原稿を書くためのメモ書きをしながら眠っていた岡。

岡 ん、ああ。

東 コーラ飲む？

岡 ん？ んん。

東 はい。(コーラを渡す)

岡 うん、
東 今回はどんなの？
岡 ああ、まだうまくまとまってなくて、でもこれじゃない気がしてて、
東 悩め悩め。悩み抜いていい作品書け。
岡 頑張るよ。
東 前よりはお金もらってるんでしょ。
岡 誇れるようなことは、
東 ゴーストライター？
岡 ストーリーやアイデアは同じなのにさ、全然違うんだよ。あの人はさ、ちよつとしたアイデアとか人物とかにさ、意味っていうか説得力をさ。順序を入れ替えたり、ちよつと書き加えたり思いつきり削ったりして、立派な作品にさ、
東 谷口オリエを越すんだろ？ ファイト。
岡 ああ、
東 あといい名前考えてね。
岡 名前？
東 (自分のお腹を触る)
岡 俺が？
東 やだ？
岡 え、だって俺の子供じゃないし。
東 康介の子供になるんじゃない。一緒になったら。
岡 ああ、……え？
東 え？
岡 あ、いや、でも、俺金あるわけじゃないよ。
東 知ってるよ。

岡 ……。
東 いい名前にしてね。
岡 ……男の子？ 女の子？
東 わかんない。
岡 じゃあ無理だよ。
東 あたしの予想だと3年後に一発あたってドカンと稼ぐね。
岡 3年後かよ。
東 それまではあたしがなんとかしてやるから頑張れよ。
体を触れ合わせながら心地よく動く二人。
ほほえましい光景。

照明 F. O.

声 何もないはずの暗闇に

36度の感触

生まれてくる命に

僕はふさわしいか

車のクラクションとブレーキの音。

(9) 病院

照明 C. I.

横たわっている岡。

その横に座っている東。

岡が目を覚ますと、東は大切そうに岡の顔に触れる。

東 ねえ……ダメだった？……あたしがいるくらいじゃなんにも
ならなかった？

岡 ……違うんだ、俺じゃない。俺が飛び出したんじゃない。
車が急に、(身体が痛む)……だから違う、俺じゃない。

藤田が現れる。

藤田 こんにちは。

東は岡を見るが、岡もその人が誰なのかわからない。

藤田 藤田。藤田実子。フジモン。

岡 ……。

藤田 覚えてる？ 断髪式。

完全な静止。数秒。
東は去っていく。

藤田 キッチンバサミで、岡くんが、私の髪を根元からバサッてね。
私が遅刻した罰。

岡 ……ハタちゃんがやれっていうから。

藤田 ゲームもやったね。私が万引きしてさ、私が捕まるかどうか。
私が笑った罰。

岡 ……昔の話じゃないか。

藤田、布の袋を取り出す。

藤田 クイズ。なんででしょう？

岡 ……。

藤田 なんででしょう？

岡 ……。

藤田 早く答えないと東ゆきえが帰ってきちゃうんじゃない？

岡 なんて(名前を)知ってる？

藤田 ほら答えて。

岡 わからない。

藤田 マジメに。

岡 ……鉛筆。

藤田 ブー。

岡 定規。

藤田 ブー。

岡 かまぼこ板。

藤田 ……。

岡 そんなのわかるわけないだろ。

藤田が袋をはずすと、包丁。

長く沈黙。

岡 ……（俺を）殺すか？

藤田 世の理不尽を感じてほしくてさ。あるとき突然巨大な悪意に襲われる。（包丁を布にしまい岡に渡す）今日から29日以内に、自分と同じ年に生まれた人間を一人。誕生日が来てれば28歳、来てなければ27歳。その包丁で。殺す手ごたえを感じてほしいからさ。できなかつたら東ゆきえが死ぬ。殺した証拠に、ビデオカメラかなにかで。誰かに撮ってもらおうといいよ。あ、私を殺そうとか？ 私が死んだら岡くんに関係した人間は全員死ぬ。そんなゲーム。

岡 ……あの車、

藤田 ？

岡 俺ひいたのお前か。

藤田 健闘を祈ってるよ。

声 暗転

照明 C. O.

音楽。

(10) 岡の家

照明 C. I.

東と波多野がいる。

そこに岡が現れる。

東 ねーすごいじゃん、ほら100万。

岡 え？

東 ちよつと言ってよー、この人急にきたからびっくりしちゃった。

波多野 ほら、この前言った。企画通ったから、出演料の前金。

東 でもまだ売れてる人じゃないですよ。

波多野 それがいんですよ。夢に向かって頑張ってる人が必要なんです。じゃ、さっそく失礼しまーす。

波多野、カメラを回す。

東 えーこれあたしも映るんですか？

波多野 そうそう、夢を追いかける人、そしてそれを支える人。

東 彼の小説ねーもう一歩だと思っただけですよ。

波多野 あ、100万円（カメラに）入ってますよ。

東 あこれしまわないと。うーんどこがいつかな。

東はそう言いながら去っていく。

完全な静止。数秒。

波多野 子供誘拐されちゃってさ。まだ赤ちゃんだよ。誘拐するか普通。身代金1000万とか言われて。それ、藤田……さんが払ってくれてさ。それで戻ってきたんだよ、子供が。っていう、そういう話。

岡 忘れてないよな。

波多野 ん？

岡 高校るとき、お前が一番フジモンに色々してたって。

波多野 深く反省してるよ。まあ、若かったからさ。

岡 ……ハタちゃん早生まれ？

波多野 ううん。今年で28。

照明C. O.

声 残り25日。

(11) 居酒屋

声 串をなんでそのまま食うわけ、ばらせよみんな食べたいんだからよ。

照明F. I.

岡と池崎が座っている。

岡は飲み過ぎて眠っていたようだ。
波多野がカメラで撮っている。

池崎 おい岡っち、

岡 ああうん、

池崎 お前今日飲み過ぎなんじゃないか。

岡 ん、ああ。

池崎 (波多野に) 絶対飲み過ぎっすよね？

波多野 ガブガブ行ってましたねー。

岡 池ちゃんってさ、俺と同じ年だったよな。

池崎 ん、ああ。

岡 28。

池崎 そうだよ。

岡 なんかこう、28ってさ、死にたくなる歳だよな。誰かが突然

殺してくればいのとか、思ったりするよな。

池崎 今は谷口さんがいるからな。

岡 ああ谷口オリエか。悪い奴だよ。かわいそうだな。騙されてる

のに気づいてないんだからさ。

池崎 ん？

岡 遊ばれてるだけだよお前、バカだな。お前ごときが谷口オリエ

と？ うぬぼれるなよクスが。ほら殴れよ。ビール瓶でさ。殺せ

よ。なあ？

池崎 わかったわかった、なんか嫌なことあったんだな。どうし

た？ 小説がうまく行ってねえのか？

岡 ……お前いつもそんな優しくないだろ。

池崎 だってお前がそんななるってよっぼどっつか。

岡 生きてる価値ねんだよ。

池崎 生きるのに価値とかいらなくね？ つつーか、生きてること
自体が価値、みてーな。あ、俺いいこと言った？ (波多野に)
いいこと言いましたよね？ (カメラに) 生きるのに価値とかいらな
くね？ つつーか、生きてること自体が価値、みてーな。

波多野と池崎、笑っている。

照明 C. O.

声 残り21日。

(12) 岡の家

東の声 そうなの、なんか怖がつてるっていうか。

藤田の声 でも結局寂しいんだよね。孤独っていうの？

東の声 そうそうそうというところある。

藤田の声 岡くんは強がりだから。

東の声 そうそう！

藤田の声 でも根はいい人だよ。

東の声 やっぱ私が守ってやんなきゃなあってー。

岡の声 ただいま。

照明 C. I.

東と藤田がいる。

岡が帰ってきたところで、波多野もカメラを持ってついてきている。

東 お帰り。

藤田 おかえりなさいい。

東 あのさ、実子ちゃんに助けられちゃって。

岡 ……？

東 痴漢に襲われちゃって。こんなでっかい男。

藤田 なんか声が聞こえて行ってみたら、ゆきえちゃんが襲われて
て、

東 バチッて、あれスタンガンていうの？

藤田 護身用でねー。

東 それでちよっとお礼でもって話で、

藤田 おじやましてまーす。おじやましてまーす。おじやましてま
ーす。
12

東 実子ちゃんってすごいね、海外で色々勉強してき、だって、社
長でしょ？

藤田 いやいや優秀な人多くて、私はほとんどなんも。

東 めっちゃいろいろな会社やってんだって。

岡 ああ、

東 なんか私にもできる仕事とかないかなあ。前までメンズエステ
にいたんだけど、

音楽。

藤田と東は絡み合い、東は苦しめられるが、藤田に苦しめられることは
わかっていない。

その様子をただ見ていることしかできない岡。

照明 F. O.

(13) 旅館

波の音。

照明 C. I.

東と藤田の二人がくつろいでいる。

東 すごい、海見えるんだー。

藤田 ま、女二人でゆっくりしようよ。

東 なんか申し訳ない。

藤田 お風呂行く？ 天然温泉だつて。

東 ああうん。

藤田 どうした？

東 ……ううん。

藤田 ……。

東 ごめんやっぱ限界かも。

藤田 またなんかあった？

東 昨日、電車待ってたら突き落とされそうになった。

藤田 ……。

東 おとといも家の前にネコの死骸あった。

藤田 ゆきえ、大丈夫だよ。(後ろから抱きしめる) 必ずなんとかなるよ。だから大丈夫。(東にキスをする) 私もさ、高校のときいじめられててさ、でも乗り越えたんだよ。(東の胸に手を回す) 心を殺してさ。いつかあいつらに罰がくだると思つてさ。だから大丈夫。いつか罰がくだるよ。私がかくだしてみせる。かわいそうなゆきえ。かわいそう。私を守ってあげる。

藤田は東を抱きしめ、東は藤田に身を預ける。

完全静止。数秒。

照明カットチェンジ。

夜。

東は寝ている。

隣で藤田は起き上がっていて、東の顔を触れている。

藤田 殺したものは生き返らなくて。本を読んでも映画をみても、あんなの嘘だからさ。現実の世界で、ゆきえみたいな人に触れると、少しだけ、心が動くよ。

照明 C. O.

声 殺された 心

壊れた 世界

くだされる 罰

声 残り13日。

(14) 谷口の家

照明C. I.

谷口と岡がいる。

谷口 そこそこ評判いいみたい。今日はお礼をしようと思って。岡

くんの作品が評価されたってことだよ。

岡 谷口さんの作品です。僕は材料を渡しただけで。

谷口 岡くんは目の付け所がいいから。

岡 それをまともな作品にしたのは、

谷口 私のこと嫌い？

岡 ……好きではないですね。

谷口 殺したいくらい？

岡 殺されたいんですか。

谷口 さあ。

岡 谷口オリエが殺されたいなんて、僕なんかいくら殺されても殺

され足りませんよ。

谷口 ……。

岡 そういう小説を今度書こうと思っていて。

谷口 ……どんな？

岡 ……男がある女性に出会って、絶望ごっこをやめにしようかと
思ってた矢先、ある人間に再会してしまってこう言われるんです。

声 29日以内に自分と同じ年に生まれた人間をひとり殺さなければ、お前の大切な人を殺す。

谷口 どうして(そんなこと言われるの)？

岡 罰、ですかね。その男の過去の罪にくだされる、罰。男は誰も
殺すことができず時間は過ぎていく。大切な女性は精神を削られ
ていく。昔はどいつもこいつも殺したいと思っていたのに、いざ
こうなると。こいつは殺すほど悪い奴じゃないとか、こいつには
家族がいるとか。

谷口 没になったら私買うよ。私が書けばいい作品になる。

岡 ……。

谷口 その男は？

岡 ……どうするんでしょう。このままじゃ彼女が殺されるんです。

谷口 ……。

岡 ねえどうすればいいんですか谷口さん。誰を殺せば？ ねえ。

谷口さん、この世の中に殺されてもいい人間なんて。ねえ、谷口

さん。

谷口 ……それを考えるのが作家でしょう？

岡 ……わかりません。僕なんかには。

谷口、岡に近づいて、叩く。

岡が驚いているところ、もう一度叩く。

谷口 (岡を叩いたり押ししたりしながら) 作家だろ。岡。作家だろ。わ
からないじゃないよ。それを考えるんだよ作家なら。考えて考え
て考えて考えて考え続けるんだよ。だからダメなんだよ。お前の
作品はその辺に落ちてる答え借りてきただけなんだよ。違うよ。
自分で考えんだよ。殺すの殺さないの殺せないの殺されたいの？
ねえ？ 考えろよ自分の頭で。

岡 考えてんだよ！ 俺だってな、考えてるんだよ！ 俺が必死で
考えてるのを、なんで考えてないなんてさ！ 俺はさ、車の前に
飛び出したよ。死んでもいいかもしれないと思っさ、それは俺
の体験なんだよ、でもそれを言葉にするとさ、どっから拾って
きたみたいな表現になるんだよ。真剣に書いてんのにさ、つまん
ねんだよ。お前は、なんであんな風に言葉が使えるんだよ。なん
で俺の体験をさ、体験してないお前があんなにうまく書けるんだ
よ。俺の体験なんだよ。俺の体験なんだよ。

谷口 殺したいほど憎い？

岡 ……そんなことで殺すのは間違ってます。

谷口 ……作家って、孤独。

岡 ……。

谷口 (岡の頭をなでたりして慰めるように) 弱くて臆病なくせにみん
なに認められなくてさ。ロマンチストなくせにリアリストぶって
さ。普通の人が考えなくてもいいようなことを小難しく考えて。
人類なんて弱いし愚かだし悲しい生き物だけどさ、でもいつか、
幸せになれる日が来るといい。

谷口、岡を抱きしめる。

谷口 怖い？

岡 ……。

谷口 その先に絶対やってくる不幸が怖い？ それで目の前の幸
せから逃げる？

岡は恐る恐る、谷口の背中に手を回して、抱きしめる。

谷口 みんなどうせいつか死ぬよ。だから今こうしていることも、
きつと悲しいことだけど。でもこの悲しさを含めてさ、きつと人
間は愛おしいよ。

音楽。

谷口と岡は、身体を触れ合わせながら動く。

岡はまだ怖れているようだが、谷口のアプローチで、次第に溶け合っ
ていく。

照明 F. O.

(15) 岡の家

声 残り7日。

東の声がきこえてくる。

照明C・I.

東 ああああー、ああああー、

と東はうめいている。岡は東の身体をさすったりしている。
その様子を波多野が撮っている。

東 (岡の手を払って) いや触んなくていいから。

岡 ああうん、

東 (携帯端末をさがしながら) 実子ちゃん……実子ちゃん……
……。

東 (うめきながら) あ、ごめんダメだも一回トイレ。

岡 うん。

東は去っていく。

波多野 最近あんな感じ?

岡 あなんか、下腹部が痛くて、血もよく出てるみたいで、わかん

ないんだけど、

東の声 あ、ダメダメダメ待って待って、あ、あ、あ、あ、
波多野 どうしました? (カメラを持って向かおうとする)

岡 (波多野の腕をつかんで) カメラ降ろせ。

波多野 いやいや、

岡 カメラ降ろせ殺すぞ!

照明F・O.

東が泣いているのか驚いているのか何か声をあげている。

岡 撮ったら殺すぞ! 絶対殺すぞ!

声 髪を切った 罰

服を脱がせた 罰

金を奪った 罰

失われた 命

(16) 車内

声 残り1日。

車内の音。

照明 F. I.

池崎が運転し、岡と波多野が座っている。
無言の時間。

池崎 これ、ずっとまつすぐでいいんだよね？

岡 うん。

沈黙。

岡 なんかごめんな。俺免許持ってないからさ。

池崎 ああいやいんだけどさ。

沈黙。

岡 俺の奥さんさ、流産しちゃった。

池崎 え？

岡 名前、考えてたんだけどな。

沈黙。

岡 池ちゃんさ、なんか今までありがとな。

池崎 なんだよ急に。

岡 初めて会ったの……2年前か。俺が入った初日、なんて言ったか覚えてる？ 客のことは人間だと思っただけ。俺だいたい救われたよ。理不尽な客がいてもさ、ま、こいつ人間じゃねえし、

って思えたし。まあ、コンビニに来る客なんてな。

池崎 ああ、じゃねえと、な。

岡 もし池ちゃんがさ、誰か殺すとしたら、誰殺す？

池崎 あー。まあいっぱいいるけどな、

岡 一人だけ。

池崎 ……：…：親父かなあ。…：別の家庭に生まれてたら、もっと違ったと思うな。

岡 ……：…：同い年なら。

池崎 同い年か。…：うーん、ぱっと出てこねーな。

岡 いや、誰かなあ？ 誰を殺すだろう？

池崎 誰かなあ。

岡 マジメに考えろ。

池崎 いや考えてるけど。

岡 だから、誰か殺さねーと谷口オリエが殺されるんだよ。

池崎 え、え、なんで？

岡 そうだとして、マジメに考えろよ。

池崎 いやそう言われても。わかんないよ。

岡 わかんないじゃねえよ考えろよ。頭使っただけ。考えろよ。誰だよ？ 誰殺すんだよ？ なあ？ (波多野に) おい何撮ってたんだよ。みせもんじゃねえんだよ。(池崎に) おい考えたか？ なあ？ 誰だよ？ 誰殺すんだよ？

照明 F. O.

(17) 森

木々の音。

照明F・I.

岡、池崎、波多野がやってくる。

足場はかなり悪そう。

池崎 なあ、なんだよ、どこ向かってるんだよ。

岡、立ち止まって周りを見渡す。

岡 うん、この辺にしよう。

池崎 なに、なにすんの？

岡 なハタちゃん、

波多野 ん？

岡 お前、全部知ってんだよな？

波多野 なになに？

岡 フジモンから全部きいてんだろ？

波多野 きいてたとしても言わないだろ。

岡 そっか。なあ池ちゃん、俺たちって、友達だよな？

池崎 ん、ああ、そうだよ。

岡 俺がどうなっても、池ちゃんは俺のこと見捨てないもんな。

池崎 まあ、うん。

岡 なあハタちゃん、俺と同じ年に生まれた人間ってさ、つまり、そこに俺は含まれるよな。

波多野 ああ、まあ、そうだな。

岡、袋を取り出し、そこから包丁を取り出す。

岡 ハタちゃん、ちゃんと撮って来てくれよ。

波多野 おう。

岡は包丁を強く握る。

照明C・O.

波多野が何か声をあげる。

岡の荒い息。

争うような音。

岡の声 池崎！ そのカメラ、撮れ！

池崎の声 はい？

岡の声 カメラで俺を撮れ。俺と、こいつと、今こうしてるのを、

撮れ！ 絶対逃げるな！ 撮り続ける！ 小便漏らしても撮り

続ける！

岡は途切れ途切れ、短い声を出している。

照明C・I.

岡は座り込んでいる。

倒れている波多野。
それを撮り続けている池崎。

岡は意味もなく近くの草をむしったりする。

岡 撮ったか？

池崎 ……。

岡 撮ったかかってきいてんだ。

池崎 はい、たぶん、

岡 うん。

池崎 ……。

岡 ああ、そのカバンとって。

池崎 はい、

岡 うん。ちよつと着替えるわ。だって、こんな血いついてたらお

かしいもんな。

池崎 あ、うん、

岡 あ、(ポケットから振動を感じて)電波あんのかここ？ (電話に出

る)はい。あーうんごめん今取材中。あそうだ、なんか久しぶり

にさ、なんかおいしいもんでも食いにさ。んーと焼肉とか、(波多

野を見て)あ、肉は嫌だな。……そばでいいや、うん、もう取材終

わるから、うん、あの前行ったうちの近くの、3時間くらいで帰

るよ、うん。(切る)

岡、顔や手にべたつと血がついているのに気づく。

岡 あそつか、ごめん、お前んちのシャワー借りていい？

照明C. O.

(18) 岡の家

照明F. I.

部屋は暗い。

東が座っているが、覇気はない。

そこに岡が帰ってくる。

岡 ただいま。

岡、電気をつける。

岡 なんだよ明かりもつけずに。

東 ……。

岡 そば、食いに行くぞ。

東 ああ、うん。

岡 久しぶりだなそばなんか食うの。うん、あそこのそばはうまい

んだよ。今日は天ぷらとか乗せようかな。うん。

東は立とうとするが、うまく力が入らない。

もう一度立とうとするがよろける。

岡が受け止めて抱きしめる。

岡 ゆきえ……ゆきえ……。俺はゆきえを愛してるよ。なあ、死ななくてよかったよ。ゆきえも俺も生きてるんだよ。愛してる。愛してる。(セックスの流れに持ち込もうとする)

東 ダメ。

岡 どうした。

東 怖いよ……しばらくは。

岡 いいよ大丈夫だよ。

東 ほんとダメだから。

岡、東を殴る。

岡 あ、殴ることないのにな。うん、ああ、でも今のはお前が悪いよ。俺のお蔭でこうして生きてるのにさ。

岡、東を抱きしめる。

東も応じる。

携帯端末のバイブレーション。

東が出る。

東 あ、もしもし実子ちゃん？ (岡の方を振り向いて)……うん、家にいるよ。

岡 (携帯を奪って)もしもし、あの、岡康介です、あの、やりました、はい、できました、はい、はい、あの、ちゃんと撮ってますんで、はい、はい、あ、お宅に？ はい、ええ、はい、はい、わ

かりました、はい、(切る)

岡、出て行こうとする。

岡 あ、ごめん、そば、ちよつと後で、

東 どこ？

岡 なんてお前に言う必要があるんだよ？ あ、うん、藤田実子の家だよ。友達だからさ。言っとくけど、お前なんかより、俺の方が昔から知ってるからな、あいつのこと、知った気になってんじやねえぞ。うん、まあ、感謝してくれよ。

照明C.O.

声 失われた命

救われた命

償われた罪と

新たな罪

※無料版はここまでです。ご覧くださりありがとうございます。全編はクラアク芸術堂の販売ページ(左のURL)から購入できます。ありがとうございます。

<http://www.clark-artcompany.com/public>

あとがき

とにかく暗転する舞台をやるうと思いついたのは2年前か3年前。そのときはもつとストーリー性の薄い、ふつうの楽しそうな日常を送っている若者がなぜか自死にいたってしまふというものだったと思う。20分くらいの短編を考えていた。そのアイディアは長いこと表に出ることなく眠っていたのだが、ここにきてそのアイディアが引っぱり出されてきた。

この舞台はシーン数が25まである。上演時間が75分とすると1シーン3分である。前作の『ある映画の話』のシーン数は8だったので、今回は1シーンあたりがかなり短い。この短いシーンの断片で物語が構成されていく。自分にとってはなかなか冒険だと思う。「悪意」というものについて考えることがある。誰かに罵られたり、嫌がらせされたり、殴られたりすると、その悪意が自分の中に蓄積される。するとその悪意をどこかぶつけたくなる。他の誰かを罵ったり、嫌がらせしたり、殴ったり。そうするとその悪意を受け取った人はまた他の誰かに……。僕は誰かの悪意に触れても、自分は他の人にぶつけないことにしているが、なんだか納得のいかないこともある。「なぜあいつは俺に悪意をぶつけてきたのに、俺は誰にも悪意をぶつけてはいけないんだ？」もしかすると僕は誰かにぶつける代わりに、作品にぶつけているのかもしれない。谷口は最後、悪意に対して善意で返すということを心に決める。キリスト的な発想だが、最近の社会の悪意のぶつけ合いをみていると、こういう思想がまた必要なのではないかと思っている。

もうひとつ、「罪」というのもこの作品のテーマになると思っている。日本の学校はなぜか学校内での生徒間の暴力や傷害、強要など

の多くが法律で裁かれていないようだ。「いじめ」という言葉で、さも「道徳的には許されないこと」というような位置づけがなされているが、あれは「法律的に裁かれること」である。停学などの処分はきいたことがあるが、起訴され実刑判決を受けたという話はきかない。被害者の心の傷は深く残るのに加害者は忘れてのうのうと生きていたりする。この物語で、岡になにも罪がなければ、岡はただ理不尽な目にあつたかわいそうな悲劇の主人公になるのだが、岡は昔藤田にした行いの罪として、藤田から罰を与えられているのである。しかも質の悪いことに、被害のみならず加害を強要させられる。さて誰が悪いのか……。もちろん岡も藤田も悪いのだけど。

最後に、このような作品を発表できることを嬉しく思う。決して万人向けの作品ではないけれど、このような作品を待ってくれている方々には感謝している。期待に応えられるように努力します。

2017年12月14日 小佐部明広

《上演記録》

プロト・パस्पア#02 『暗転 または悪意の後継』

【キャスト】

岡康介	中村雷太（クラアク芸術堂）
東ゆきえ	マイケ祥子
池崎勉	むらかみ智大
谷口オリエ	小川沙織
波多野彰良	高橋寿樹（クラアク芸術堂）
藤田実子	ふじ

【スタッフ】

作・演出 小佐部明広（プロト・パस्पア）
照明 上村範康
音響 小佐部明広
大道具 米沢春花（NPO法人コンカリーニョ）
衣装 中村のか
小道具 大川有沙実
宣伝美術 小佐部明広
制作 大川有沙実

【日程】 2018年2月23日（金） 20時
24日（土） 11時半／15時／18時

【会場】 扇谷記念スタジオシアターZOO

【料金】 2,000円

※実際の上演内容と一部異なる場合があります。ご了承ください。

《『暗転 または悪意の後継』の上演について》

「前売入場料2000円未満」または「公演予算100万円以下」の場合
は、脚本使用料は**無料**です。それ以外の場合は、協議の上、総予算の3%程
度を脚本使用料とします。上演のお問い合わせはクラアク芸術堂企画運営委
員会まで。

【クラアク芸術堂企画運営委員会】

clark.artcompany@gmail.com

2018年2月20日 第1刷制作

クラアク芸術堂ホームページ

<http://www.clark-artcompany.com>